

■連絡先 総務課企画財政グループ（広報担当）
電話 25-2131 FAX 25-3571



東大陸上部夏合宿で町民交流

8月9日、合宿で清里町を訪れている東京大学陸上部と清里高校の生徒との懇談会が行われました。懇談会では、勉強と部活の両立の方法や大学受験へのアドバイスを受けるなど、参加した生徒は熱心に耳を傾けていました。17日には小中学生を対象とした陸上教室も行われ、ストレッチや練習の基礎を学ぶ機会となりました。

東大陸上部は平成2年から、毎年この時期に合宿を行っており、清里町での合宿は今回で20回目となります。

8月12日には、東大陸上部後援会（会長 村尾富造さん）主催の夕食交流会が行われ、部員の皆さんからは「清里町は第2の故郷」との声が多く聞かれるなど、今後の交流の発展が期待されます。

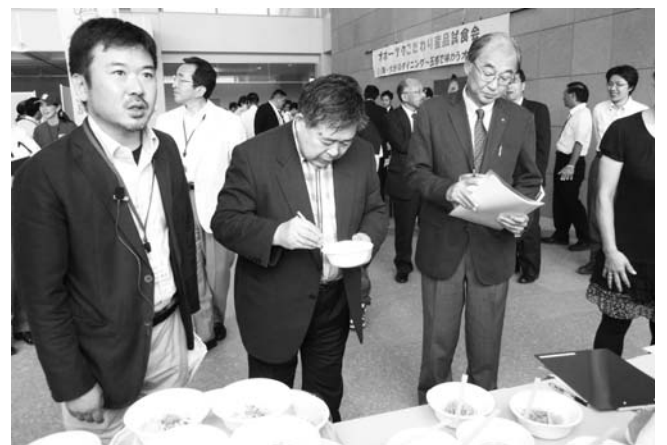


清里ジャガーズが全道大会で 大健闘

7月31日から札幌市で行われた全道少年軟式野球大会で清里ジャガーズが大健闘しました。初戦の強豪小樽支部代表チームとの対戦は6-3と勝利し、見事全道大会で1勝を勝ち取りました。

悪天候で1日順延となった2回戦の相手は、紋別支部代表チーム。試合は接戦となり、選手たちは強豪相手でも気後れすることなく互角の戦いを見せてくれました。結果は7-1と惜しくも敗れましたが、応援に駆けつけた保護者らは、健闘した選手たちを讃え大きな拍手を送りました。

また、ハツラツとした入場行進が評価され「入場行進最優秀賞」を受賞するなど選手たちにとって良い思い出となる大会となりました。



「こだわり産品試食会」で 特産品をPR

8月3日、オホーツク文化交流センター（網走市）で、「オホーツクこだわり産品試食会」が開催され、清里町をはじめオホーツク管内18市町村のこだわりの食材や食品が集められ、オホーツクの食の魅力と可能性を探りました。

試食会には、北海道名誉フードアドバイザーの小泉武夫氏（東京農大名誉教授）をはじめ約150人が参加。会場には「オホーツク北見塩焼きそば」（北見市）や「和牛ジャーキー」（津別町）など24品の食品が並び、清里町からは「ドリンクピネガー」と「清里冷麺」が出品されました。小泉名誉教授は、「オホーツク地域の食材をさまざまな場面でPRしていきたい」と評価し、大勢の来場者に清里町の特産品がPRされました。

町民みんなで支える「ふれあい広場」

7月25日、保健センター前をメイン会場に、「第23回ふれあい広場2010きよさと」が行われました。

障がい者や高齢者とのふれあいを通じてノーマライゼーションの考え方を普及するために行われている「ふれあい広場2010きよさと」。手話体験や高齢者疑似体験など、障がいをもつ方の立場を実体験するコーナーや、レスキューキッチン（大型特殊調理器）による災害時の炊き出し訓練も行われました。

また、路上やイベント、学校、福祉施設などを中心に音楽活動を行っている車椅子の歌うたい「KAZ」さん（札幌市）が熱演し会場を盛り上げました。

毎年、多くのボランティアの協力により運営されている「ふれあい広場」。参加された多くの方に福祉に関心を持ってもらう機会となりました。



江南小で小さな体験留学生を受け入れ

8月17日から5日間、江南小学校で小さな体験留学生の受け入れを行いました。体験入学したのは神奈川県藤沢市の鶴つる南なん小学校の伊奈幹生くん（6年）。全国の同じ名前なの小学校を調べていた伊奈くんが昨年、北海道旅行の際に訪れた清里町の自然や景観に感動したことがきっかけで、保護者や学校、地域の協力により留学が実現しました。

期間中は、江南小の児童と菜園で収穫したトマトでケチャップづくりや登山を行うなど、清里町での生活を満喫しました。

伊奈君は「ホームステイ先でもとても良くしてもらい、貴重な体験をすることができました」と話してくれました。



花と緑と交流のまちづくり 10周年を記念して講演会

8月7日、プラネット97を会場に「花と緑『景観とガーディングの架け橋』」と題して、北海道グリーンコーディネーター川原元信氏を講師に迎え、花と緑と交流のまちづくり講演会が行われました。

自然環境や街並み、農村風景とガーディングの関連性や、景観と観光との密接な関係など約30名の参加者は、講演に熱心に耳を傾けていました。

地域住民が主体となったまちづくりを目指しスタートした「花と緑と交流のまちづくり事業」も今年で10年目を迎えました。次のステップに向けた新たな取り組みが期待されます。